

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、復興関連需要や経済政策による景気回復の動きが見られたものの、雇用環境は依然厳しく世界的な景気減速や円高の常態化などの景気下振れリスクが内在する先行き不透明な状態で推移しました。

調剤薬局業界及び介護業界におきましては、平成24年4月1日に調剤報酬改定・薬価改定・介護報酬改定が同時に実施され、薬価は6.25%の引下げ、介護報酬は1.2%の引上げとなりました。

このような環境下、当社グループは調剤薬局事業及びヘルスケア事業におけるM&Aの実施や投資子会社の設立により、グループ子会社10社体制にて事業規模拡大に取り組んでまいりました。

当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、主力とする調剤薬局事業が薬価改定等の影響を受けましたが、ヘルスケア事業及び医薬品卸事業の業績が寄与し、売上高は10,183百万円(前年同期比5.8%増)となりました。一方、営業利益は576百万円(前年同期比3.6%減)、経常利益は546百万円(前年同期比4.3%減)となりました。四半期純利益につきましては、投資有価証券売却益を特別利益に計上したため558百万円(前年同期比46.4%増)の増益となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

#### ① 調剤薬局事業

調剤薬局事業におきましては、薬価引下げ等の影響を受けましたが、処方箋の長期化により処方箋単価が前年を上回ったため既存店の売上高は微増となりました。新規出店につきましては、6月にフラワー薬局柘植店(三重県)、7月にフラワー薬局くじま店(大阪府)を開局しました。加えて、8月に子会社である株式会社メディケアサポートが愛知県の2店舗を取得し、当社グループの店舗数は82店舗となりました。その結果、売上高9,172百万円(前年同期比3.8%増)、営業利益682百万円(前年同期比10.2%減)となりました。

#### ② ヘルスケア事業

ヘルスケア事業におきましては、介護付有料老人ホーム等6施設の入居率が増加したこと及び今年3月に取得した訪問介護事業会社の業績が寄与したことにより、売上高は577百万円(前年同期比37.9%増)、営業利益は82百万円(前年同期比318.1%増)となりました。

#### ③ 医薬品卸事業

医薬品卸事業におきましては、厚生労働省によるジェネリック医薬品使用促進策のもと、積極的な営業を展開したことにより、売上高は396百万円(前年同期比20.3%増)、営業利益は42百万円(前年同期比176.6%増)となりました。(内部売上高を含む売上高は582百万円となり前年同期比23.6%増)

#### ④ 不動産事業

不動産事業におきましては、不動産の賃貸業務により安定した収益を確保しております。不動産事業の売上高は37百万円(前年同期比1.8%減)、営業利益は20百万円(前年同期比5.1%増)となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は3,724百万円となり、前連結会計年度末と比較して1,538百万円増加いたしました。

当第2四半期連結累計期間における、各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、378百万円(前年同期比117百万円の減少)となりました。これは、主に税金等調整前四半期純利益997百万円、仕入債務の増加185百万円、減価償却費155百万円があったものの、投資有価証券売却益451百万円、売上債権の増加101百万円、法人税等の支払343百万円があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果得られた資金は、1,715百万円(前年同期は518百万円の支出)となりました。これは、主に投資有価証券の売却による収入2,747百万円があったものの、投資有価証券の取得による支出557百万円、有形固定資産の取得による支出361百万円があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果支出した資金は、555百万円(前年同期は272百万円の収入)となりました。これは、主に長期借入金の純増加143百万円があったものの、短期借入金の返済による支出600百万円があったことによるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。